学校だより

翔　　空

№２４　平成２３年１０月２５日（火）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

［翔空祭の結果発表］

今回表彰されたものについて、主なものをお知らせします。なお、合唱で最優秀賞を取った３年２組の皆さんには、１１月１６日の音楽学習発表会に参加していただきます。

翔空祭新聞コンクール
　最優秀賞　３年３組
　優秀賞　３年１組
　優秀賞　３年２組
合唱コンクールの部
　最優秀賞　３年２組
　優秀賞　１年２組
　優秀賞　２年１組
　優秀賞　３年３組
指揮者の部
　最優秀指揮者賞
　３年　成瀬　正理くん
　優秀指揮者賞
　３年　国分　雄大くん
伴奏者の部
　最優秀伴奏者賞
　３年　熊谷　由美さん
　優秀伴奏者賞
　３年　高岡　静さん

【世界の名言（英語版）③】

「世界の名言」の第３弾です。どうぞお楽しみください。

Only a life lived for others is a life worthwhile.

（他人のために生きる人生だけが、価値ある人生だ。）
～アルバート・アインシュタイン～

あの有名な物理学者のアインシュタインが語った人生についての名言です。自己保身や自分の欲だけのために生きているようでは、まだ価値のある人生とは言えないのです。私のような凡人には、なかなかまねのできないことではありますが、少しずつでも他人のためになることに取り組んでいく姿勢だけは、大切にしたいものです。

「翔空祭を通して思うこと・・・」

～子どもたちのエネルギーの大きさを感じた～

私にとっての「文化祭」は、文化の香りがただよい、いつも何かしら感動を伴った、心のゆらぎを感じるものです。今から１０年ほど前に、教頭として湖南中に勤務していたときのことです。私は当時、技術の授業を持っていて、子どもたちと一緒になって鉢植えの３本菊が綺麗に咲くのを待ち焦がれていました。菊作りのノウハウを何も知らなかった私は、地元の菊作りの達人に、５月頃から週１回のペースで、子どもたちに寄り添って指導をしていただき、大変助かったことを思い出します。文化祭＝菊作りという一つの公式が頭のどこかに残っているのも、そのような理由からかもしれません。

ところで、自画自賛とはなるのですが、本校の文化祭、とっても良かったですね。オープニング、応援団のエール、英語弁論、各学年の演劇、そして合唱コンクール、吹奏楽部の演奏と盛り沢山で見せ場もあり満載でしたし、私が言うのもおこがましいのですが、子どもたちの表情と一体感がとても良かったと思うのです。

実は、文化祭前日、夕方遅くに職員の最終打ち合せがあり、先生方には、「文化祭当日の出来ばえや結果のみではなく、ここに至るまでの経過（プロセス）を何らかの形で認めてやってほしい。どんなことでもいいので具体的にほめてやってください。」とお願いをしました。きっと担任からねぎらいの言葉があったものと察します。子どもたちにとっての文化祭、それは、一言で言うなら**「エネルギーの収束と発散の場」**であり、**「友だちとの絆をしっかりと確かめたり、自分の立ち位置を確認したりする場」**でもあるのです。折角、３週間以上も集中して取り組んできた準備や練習を、賞に入った入らなかっただけで評価したくないのです。一人一人が何らかの形でかかわった文化祭。「青春の一ページ」にふさわしい良き思い出とするためにも、周りの大人達こそが感動したり、一生懸命に燃えるべきだと思うのです。

〈翔空祭、大成功！「おめでとう！感動をありがとう！」〉

最後になりましたが、保護者の皆さまも模擬店やバザーへのご協力本当にありがとうございました。天候がもっと良ければ一切文句なしの文化祭だったのですが、私の不徳のいたすところで雨にたたられてしまいました。来年こそは「晴れ男」となるべく今から精進いたします。

今後とも喜久田中の諸活動にご協力お願いいたします。